

目的 計測上のWL位と日常のナチュラルなWL位（以後NWL位とする）とは必ずしも一致しない。さらにスカートやパンツなどのウエストベルトの適合性については、体型差や着衣条件などによる嗜好性、素材や幅などによって個人差があると推測される。そこで満腹時と空腹時について、インサイドベルトの種類と幅、着衣条件の3要因を設定し、NWL位でのウエストベルトに対する適合について、被験者自身の調節による計測を行ない分析した。

方法 インサイドベルトは素材の異なる3種類で各々幅3、4、5cmの計9種類とし、調節自由な状態で同日における満腹時（昼食後）と空腹時（昼・夕食前）を設定し、着衣条件はヌード、スリッパ着用、スリッパにブラウス着用の3条件とした。測定項目は生理的最適値、スカートを仮定した場合の最適値、及びゆるさ・きつさの限界値の4項目である。被験者は成人女子50名である。計測データは平均値、及び標準偏差をもとに分析した。

結果 インサイドベルトの種類・幅・着衣条件に関して、測定値の標準偏差に顕著な特徴がみられた。種類と幅を同一条件とした時、着衣条件の変化に伴い満腹時・空腹時共、最適値についてヌード、スリッパ着用、スリッパにブラウス着用の順に標準偏差は減少する。すなわちヌード時の標準偏差を100とした場合、中でも満腹時の5cm幅のインサイドベルトにおいて、種類Aベルトではスリッパ着用で94.8、スリッパにブラウス着用で92.3、同様に種類Bでは95.3、91.2、種類Cでは96.7、93.2に減少し、インサイドベルトの幅・種類を同一にした場合、ヌード時から着衣条件の変化に伴いバラツキは小さくなる。